

第20回「VIVA JUDO！」杯 小学生柔道大会 要項

1. 目的 柔道の基本技能を正しく修得させるとともに、柔道の試合を通じて心身の鍛錬及びその技能を磨き、明るく、正しく逞しい少年の健全育成を図る。また、将来を担う少年の相互親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 公益財団法人 東京都柔道連盟
3. 企画・運営 株式会社 吉田企画
4. 後援 公益財団法人全日本柔道連盟、東京都教育委員会、公益財団法人東京都スポーツ協会、関東柔道連合会
5. 日時 令和8年10月25日（日）

個人戦（1～2年生）試合開始	9 時 3 0 分
個人戦表彰式・団体戦開会式	1 2 時 0 0 分

＜開場＞（予定） 監督・選手：8 時 0 0 分～ 観客：監督・選手入館次第
6. 会場 東京武道館 大武道場 〒120-0005東京都足立区綾瀬3-20-1 TEL 03(5697)2111
7. 試合種目 団体戦（小学3～6年生）及び個人戦（小学1～2年生）
8. 参加資格

① **団体戦**

 - (1) 小学3年生以上の男女で出場チームを通して全柔連登録をしている こと。
 - (2) 監督は全柔連公認指導者資格（C 指導員以上）が有効で資格登録が完了していること。
 - (3) 出場は、同一団体から2チームまでとする。

※ チーム・監督・選手は全柔連登録が完了していること。（コーチの登録はできない）

② **個人戦**

 - (1) 小学1、2年生の男女で申込みチームを通して全柔連登録をしている こと。
 - (2) 事故防止のため、休業期間おおむね6ヶ月以上で受身を修得済の者とする。
 - (3) 監督・コーチは全柔連公認指導者資格（C 以上）が有効で資格登録が完了していること。

※ チーム・監督・コーチ・選手は全柔連登録が完了していること。
9. チーム編成 **団体戦**
 - (1) チームは全柔連登録でチームIDを持ち、その団体登録が完了していること。
 - (2) 1チームの編成は、監督1名・選手5名（最小3名）とする。

※ (3) 選手の編成は大将・副将は6年生、中堅は5年生、次鋒は4年生、先鋒は3年生とする。
その学年の選手がいらない場合は1学年下の選手をエントリーすることができる。
但し、先鋒には適用しない。（2年生以下の出場は不可とする。）

※ (4) 選手は学年順に配列し同学年内は大将側から体重の重い順に配列すること。
欠けている学年は、その種別を空位とすること。

※ 監督の兼務は問わない。但し、試合中の監督席には監督が着き、試合中の負傷等、不測の事態に対応可能なこと。
10. 試合方法

① **団体戦**

 - (1) 試合はトーナメント戦で行う。
 - (2) 各チーム5名の点取り対抗戦とする。
 - (3) トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア. 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ. ア で同等の場合は、「一本」（それと同様の勝ちを含む）による勝ち数の多い

チームを勝ちとする。

ウ. イ で同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ. ウ で同等の場合は、代表戦を1回行い、必ず勝敗を決する。出場する選手は「引分け」であった対戦の中から1試合を抽選で選出する。

② 個人戦

(1) 試合は、学年別・男女別・体重別のトーナメント戦で行う。

(2) 体重区分は負傷事故防止のため、申込書に記入されている選手の体重をもとに申込状況に応じて振り分ける。

11. 審判規定 ① 団体戦

国際柔道連盟試合審判規程(2025～2028)および、国内における「少年大会試合審判規程」で行う。

(2) 試合時間は、1回戦～準々決勝戦まで2分間とし、準決勝戦・決勝戦は3分間とする。代表戦についても、それぞれ2分間及び3分間とする。

(3) 勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「有効」「僅差」とする。「僅差」とは、双方の選手間に技による評価（技あり）がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差がなく、かつ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。但し、代表戦の場合は旗判定で必ず勝敗を決する。（GSは行わない。）

なお、投げ技における有効は2025年1月にIJFが発出した「有効」を採用する。

② 個人戦

国際柔道連盟試合審判規程(2025～2028)および、国内における「少年大会試合審判規程」で行う。

(2) 試合時間は2分間とする。

(3) 勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「有効」「僅差」とする。「僅差」とは、双方の選手間に技による評価（技あり）がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。得点差がなく、かつ「指導」差が1以内の場合は旗判定で必ず勝敗を決する。（GSは行わない。）

なお、投げ技における有効は2025年1月にIJFが発出した「有効」を採用する。

12. 表彰

① 団体戦

(1) 優勝・準優勝・第3位（2チーム）の計4チームを表彰する。

(2) 参加選手全員に参加賞を授与する。

② 個人戦

(1) 各種別、優勝・準優勝・第3位（2名）の計4名を表彰する。

但し、出場選手数により変更する場合がある。

(2) 参加選手全員に参加賞を授与する。

13. 参加申込 (1) 申込期間 令和8年9月2日（水）～9月16日（水）23：59締切

(2) 申込方法

全柔連登録システム（Judo Member）を用いて行い③の承認を得て申し込みは完了する。

①申し込みは出場チームの登録責任者が取りまとめて行う。

※申込内容の変更・取消は、申込期間中に登録責任者がJudo Memberから行う。

②申し込みページの「大会情報/概要」の注意事項を必読のこと。

③承認は東京都柔道連盟が行う。（承認が申込期限以降になることもある）

※ 同団体から2チーム出場する場合は申込みチーム名末尾にA・Bと表記すること。

例) 東京都柔道クラブA カナ：トウキョウトジュウドウクラブエー

東京都柔道クラブB カナ：トウキョウトジュウドウクラブビー

※ 2チーム目の申込は「+この種目に別の選手で申し込む」の青いバーをクリック

※ 団体戦：大会番号 E2003159

※ 個人戦：大会番号 E2003158

(3) 参加費 無料

(4) 問い合わせ先 公益財団法人東京都柔道連盟

メール：tojuren@tojuren.or.jp / TEL：03-3818-5639

14. 選手変更 団体戦のみ

(1) **9月17日00：00'～10月15日 23：59 負傷等で止むを得ず選手変更を行う場合**

変更方法 ・新たな選手を含め再配列、同学年内は大将側より体重の重い順とする。

・選手変更のExcelフォーマットに入力の上、メールにて提出すること。

・送信先アドレス：moshikomi@tojuren.or.jp

(2) 配列は「9.チーム編成」の※(3) および※(4) に準ずる。

(1) **10月16日 00：00～**

新たな選手の補充および配列変更はできない。

大会当日に「欠場受付」に欠場者を申し出ること。

欠場のところは、空位のままとする。

(2) 大会中の負傷等により空位となった場合、欠員のままとし、その選手は以後の試合には出場できない。

15. 組み合わせ ①組み合わせ

令和8年10月上旬東京都柔道連盟が行う。

②ホームページへの掲載（予定）

令和8年10月上旬

16. 保険

除 (1) 主催者が参加者全員に対して傷害保険の加入手続きを行い、その費用を負担する。

尚、万が一の事故発生に備え、参加者各人が別途傷害保険に加入するなどして、万全の事故対策を立てておくこと。

(2) 大会中の不慮の事故・疾病については応急処置を施すとともに、傷害保険の範囲内で責任を負うものとする。

(3) 大会当日、参加者は健康保険証を必ず持参すること。

17. 柔道衣

原則として柔道衣の袖・裾の折込みは禁止とする。ただし、成長期を考慮し、今大会に限り5cm・一折りまでの折込み可。また、前合わせについては十分な重なりがあること。認証柔道衣の使用は義務付けない。但し、製造者マークについては全柔連の規程を遵守する。

18. ゼッケン

参加選手は着用する柔道衣に規定の大きさのゼッケンを正しく縫い付けること。ゼッケンを付けていない選手は出場できない。

図1 ゼッケンの縫付方

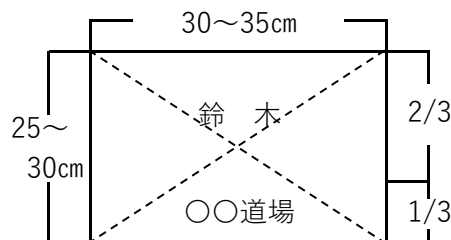
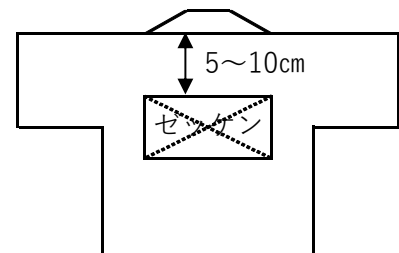


図2 ゼッケンの縫付位置



(1) 所属名は『申込み団体名』（省略は可）とする。

※同団体から2チーム出場の場合も「A・B」の表記は不要とする。

(2) チームに2名以上同じ名字（姓）の場合は、名前の一字以上を加える。

※性別が異なる場合は不要。

(3) 図2の位置に強い糸で縫い付ける。対角線（-----の部分）も必ず縫い付けること。

(4) 名字（姓）は上側2/3、出場するチーム名は下側1/3。

- (5) サイズは概ね横30cm～35cm、縦25cm～30cm。
- (6) 布地は白色(晒・太綾)とし、書体は太いゴシック体または明朝体(楷書)で、男子は黒文字、女子は赤文字とする。

19. 各種対応について

(1) 脳震盪対応について

選手および指導者は下記事項を遵守すること。

- ①大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場許可を得ること。
- ②大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
- ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- ④当該選手の指導者は大会事務局及び全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。

(2) 皮膚真菌症(トンスランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は大会への出場ができない場合もある。

20. 監督・観客について

(1) 監督と個人戦のみ登録可能なコーチは、審判員に準じた服装とする。

(スーツ、ネクタイ着用。白のワイシャツ、グレー又はダークカラーのスラックス、女性はこれに準ずる服装)

監督の服装については厳しく注意させていただきますので予めご了承ください。

(2) 観客の制限

消防法の適用により、収容人数に制限があります。

つきましては、観覧者は選手1名につき1名とさせていただきます。

※観覧者にはリストバンドを付けてご入館いただきます。

但し、乳幼児が保護者の膝の上で観戦する場合、リストバンドは不要とする。

21. その他

(1) 個人情報、肖像権の取り扱いについて

入力された個人情報や競技結果・大会中に撮影された写真または動画等の映像が、大会プログラム・掲示物・大会ホームページ・都柔連Facebookに掲載される場合があります。また、その他報道機関等により新聞、雑誌、テレビ及び関連ホームページ等に公開される場合があります。

大会時に撮影する映像を、審判員および指導者の技能向上のための研修会資料として使用する場合があります。

(2) 選手の宿舎及び大会当日の昼食は各自で用意すること。また、宿舎の幹旋は行わない。